

相談支援センター「はあもにい」脇山センター長へのインタビュー全文

「自分の知らない世界」だからこそ

新しく相談支援事業所を始めた、その理由

平成17年だったと思います

が、第1回目として開催された

相談支援専門員の初任者研修を

受講しました。当時の仕事に

従事していましたが、自分の視野

を広げるために相談支援専門員の

勉強をしようと思いました。

その後、取得した資格を生かして

相談支援事業所で相談員として



従事することとなりました。

相談支援事業所で仕事を始めた当時、知らないことが多いと痛感

し、同僚の相談員の姿を見て地域で生活されている障がいのある

方の大変さと相談支援の奥深さを感じました。一般的な組織と異な

り、本人の意向を踏まえたうえで相談員の考え方に基づいて支援を

すがた しえんしゃ
していく姿に支援者としての独立性を強く感じました。反面、特有
きんちようかん
の緊張感があり、相談支援を終了したのち「これでよかったのだ
ろうか」と自分の支援を振り返り、答えが出ない自問自答を繰り返し
ていたことを覚えていきます。

とうじしゃかいしげん すく
当時社会資源が少なく、障がいのある方の選択肢がなかったため、
しゅうろうしえんじぎょうしよ たあ
就労支援事業所の立ち上げを考えるようになり、現在の「はあもに
い」(就労継続支援 B 型)のちに就労継続支援 A 型の事業も展開)
をつく
を作りました。当時からの就労支援事業が軌道にのったら相談
しえんじぎょう
支援事業をやりたい気持ちがありました。そして、今年6月より
そうだんしえんじぎょう たあ
相談支援事業を立ち上げ、就労支援と並行して事業運営をしていく
ことになりました。

しょう
障がいがあることで生き
かた
にくさを感じている方も多
こえ ちよくせつき
く、その声を直接聞くこと
そうだんしえんせんもん
ができるのは相談支援専門
いん おも
員だと思っています。これ

しゅうろうしえん おこな
まで就労支援を行ってきた
けいげん ほんにん ことば はな
経験から、本人が言葉で話



す意思表示以外の本心を行動や発言などからより深く理解できると
おも 思っており、その深層の真意に基づいた相談支援ができるのではな
いかと思っております。相談支援の仕事は、ある人の人生を体感できる
職業です。この相談支援に初めて携わった時に心が動いたあの
感覚を胸に、相談支援事業に取り組んでいきたいと思っております。

